

平成 2 5 年度
(2013 年度)

事業報告書

自 2013 年 4 月 1 日

至 2014 年 3 月 31 日

公益財団法人ユニジャパン

平成25年度 事業報告

I. [事業の状況]

1. 国際映画祭事業

- 名称： 第26回東京国際映画祭
- 主催： 公益財団法人ユニジャパン
(第26回東京国際映画祭実行委員会)
- 共催： 経済産業省(マーケット部門)
東京都(コンペティション部門)
- 期間： 平成25年10月17日(木)～平成25年10月25日(金)
- 企画： コンペティション、特別招待作品、アジアの未来、日本映画スプラッシュ、
ワールド・フォーカス、みなと上映会、TIFFCOM 2013、
第10回文化庁映画週間 他
- 会場： 六本木ヒルズ(港区)をメイン会場とし、その他都内劇場及び施設・
ホールを使用
- 後援： 総務省／外務省／環境省／観光庁／港区／(独)国際交流基金／
(独)日本貿易振興機構／東京国立近代美術館フィルムセンター／
(公財)港区スポーツふれあい文化健康財団／(公財)JK A／
(一社)日本経済団体連合会／東京商工会議所／
(一社)日本映画製作者連盟／(一社)映画産業団体連合会／
(一社)外国映画輸入配給協会／モーション・ピクチャー・アソシエーション(MPA)／
全国興行生活衛生同業組合連合会／東京都興行生活衛生同業組合／
NPO法人映像産業振興機構／(一社)日本映像ソフト協会／
(財)角川文化振興財団／(一財)デジタルコンテンツ協会／
(一社)デジタルメディア協会
- 支援： 文化庁(国際芸術フェスティバル支援事業)
- 補助： 公益財団法人JK A(競輪補助事業)
- オフィシャルパートナー： 木下グループ／日本コカ・コーラ(株)／キヤノン(株)／
キヤノンマーケティングジャパン(株)
- 協賛： 大和証券グループ／ソニー(株)／ペルノ・リカール・ジャパン(株)／
フィールズ(株)／BEYOND : Two Souls／森ビル(株)／アウディジャパン(株)／
ソニーPCL(株)／凸版印刷(株)／(株)WOWOW／(株)TASAKI／
カルチャー・コンビニエンス・クラブ(株)／松竹(株)／東宝(株)／東映(株)／
(株)KADOKAWA／日活(株)／富士フイルム(株)／TOHOシネマズ(株)／
(一社)映画演劇文化協会
- オフィシャルデジタルパートナー： ヤフー(株)／(株)Gyao
- 特別協力： 読売新聞

オフィシャルラジオ： J-WAVE

協 力： Cine Grid／帝人(株)／テレビ朝日／ゲッティイメージズ ジャパン(株)／
株クララオンライン／TOKYO MX／LINE(株)／
スピーク&スパン ノーブル／シダックス(株)／(株)Jストリーム／
MTV Networks Japan(株)／(株)小田急百貨店

【開催概要】

第26回東京国際映画祭は、平成25年10月17日(木)から10月25日(金)まで9日間、六本木ヒルズをメイン会場として、その他都内の会場を使用して開催された。また10年目を迎えたマーケット部門(TIFFCOM2013)は、昨年に引き続き台場(港区、ホテルグランパシフィック LE DAIBA)で開催されることとなったが、合同開催の第10回東京国際ミュージックマーケット(10th TIMM)、及び、東京国際アニメ祭2013秋(TIAF2013Autumn)との一体感の強化を図り「JAPAN Content Showcase」として新たに生まれ変わった。いずれの会場とも大変な賑わいを見せて、好評裡に終了することが出来た。

新たに、椎名ディレクター・ジェネラルを迎え、次の25回に向けての第一歩であった本年度の映画祭は、原点回帰の精神で作品重視・作品本位をコンセプトに、「アジアの未来」部門の新設、日本映画部門のリニューアルとしての「日本映画スプラッシュ」、ワールドシネマ部門の拡大版「ワールド・フォーカス」を実施した。上映本数こそ若干減ったものの、六本木ヒルズアリーナの連日の賑わい等もあり、今映画祭の自主企画は30企画、動員数は121,771名、上映作品数は138本であった。

オープニングセレモニーは、10月17日(木)にTOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。フェスティバルミューズの栗山千明による挨拶の後、茂木敏充経済産業大臣より祝辞をいただき、各部門審査委員の紹介、チェン・カイコー国際審査委員長による挨拶、コンペティション作品の紹介が続き、椎名保ディレクター・ジェネラルによる開会宣言が行われ、最後に会場に駆けつけていただいた安倍晋三総理大臣からも祝辞をいただく事ができた。

公式オープニング作品は、ポール・グリーングラス監督の「キャプテン・フィリップス」で、同監督と主演俳優のトム・ハンクスの舞台挨拶もあり、会場は感動と興奮に包まれた。

終映後、グランドハイアット東京の宴会場に場所を移し、オープニング・レセプションが行なわれた。同時に、ウエストウオーク5F「Roy's」でも一部の方を招いたレセプションを実施した。クロージングセレモニー(授賞式)は、10月25日(金)にTOHOシネマズ六本木ヒルズ内で開催された。授賞式では、「日本映画スプラッシュ 作品賞」、「アジアの未来 作品賞」の各贈賞に続き、「コンペティション」各部門の授賞が発表された。

コンペティション部門の「東京サクラグランプリ」はルーカス・ムーディソン監督の「ウィ・アー・ザ・ベスト!」に、審査員特別賞はベナム・ベザディ監督の「ルールを曲げろ」に贈られた。また、「アジアの未来 作品賞」はヤン・フィロン監督の「今日から明日へ」に、「日本映画スプラッシュ 作品賞」は坂本あゆみ監督の「FORMA」に贈られた。その後、アカデミーヒルズ49階タワーホールに会場を移して「感謝の夕べ」を開催した。公式クロージング作品「清須会議」の出演者による舞台挨拶、及び、上映は前日の24日に行われた。

【自主企画】

（１）コンペティション （共催：東京都）

本映画祭の主要部門として映画産業の担い手となる有望な映画作家の活動を支援し、映画芸術の向上と国際交流に寄与することを目的に、2013年1月以降に完成した長編作品を世界各国から公募し、厳正な予備審査を経た15作品を期間中上映した。各作品の上映後に招聘したゲスト（作品関係者）によるQ&Aを行い、観客との交流の輪を広げた。

国際映画製作者連盟の規約に従い、5名（日本人1名を含む）で構成される国際審査委員会を設けて作品の審査を行い、東京サクラグランプリ、審査員特別賞、最優秀監督賞、最優秀主演女優賞、最優秀主演男優賞、最優秀芸術貢献賞の6賞が決まり、10月25日の閉会式会場で発表された。東京サクラグランプリには5万米ドル、審査員特別賞には2万米ドル、その他の賞に5千米ドルが副賞として贈られた。東京サクラグランプリ作品には東京都知事の賞状とトロフィー（麒麟像）が贈られた。また、みなと委員会の協力により、一般観客の投票による観客賞が設けられ、賞金1万米ドルが1作品に贈られた。

- ・東京サクラグランプリ：『ウィ・アー・ザ・ベスト！』（監督 ルーカス・ムーディソン）
- ・審査員特別賞：『ルールを曲げろ』（監督 ベーナム・ベーザディ）
- ・最優秀監督賞：ベネディクト・エルリングソン（作品『馬々と人間たち』）
- ・最優秀主演女優賞：ユージン・ドミンゴ（作品『ある理髪師の物語』）
- ・最優秀主演男優賞：ワン・ジンチュン（作品『オールドス警察日記』）
- ・最優秀芸術貢献賞：アーロン・フェルナンデス（『エンプティ・アワーズ』監督）
- ・観客賞：『レッド・ファミリー』

上映本数 15作品 動員数 13,817名

（２）特別招待作品

国内未公開の話題作品を22本上映した。招聘した作品ゲストによる舞台挨拶やイベント参加などで華やかに盛り上げ、東京国際映画祭のPRと観客動員に貢献した。また、特別上映作品として、「日本アニメーションの先駆者たち」、及び、「東京オリンピック（デジタル修復版）」の上映も行った。

上映本数 28作品 動員数 8,574名（「特別上映」6本を含む）

（３）アジアの未来

アジア（日本、中東地域を含む）で作られた、新鋭監督の1本目または2本目の長編作品を対象にした、フレッシュなコンペティション部門。本年度より新設。かつてあった、「ヤングシネマ・コンペティション」部門の精神を復活させ、若い才能を東京から世界に発信していく。

上映本数 8作品 動員数 3,209名

アジアの未来 作品賞

「アジアの未来」部門で上映された作品の中から、審査委員会により1作品が選ばれ、賞金1万米ドルが贈られた。

- ・作品賞：『今日から明日へ』（監督 ヤン・フィロン）

- ・スペシャル・メンション：『祖谷物語—おくのひと—』（監督 蔦 哲一朗）

（４）日本映画スプラッシュ

旧来の「日本映画・ある視点」部門の精神を引き継ぎ、日本のインディペンデント映画を応援する部門。海外にしぶき（Splash!）を上げて飛び出して行けるような力のある作品、豊かな才能を感じさせる監督たちを積極的に紹介。新人によるデビュー作から実力派中堅監督までバランスの取れた作品群となった。上映作品の中から、審査委員会により作品賞が選ばれ、100万円が贈られた。

- ・作品賞：『FORMA』（監督 坂本 あゆみ）
上映本数 9作品 動員数 2,249名

（５）ワールド・フォーカス

旧来の「アジアの風」と「ワールドシネマ」部門を合体させたりニューアル部門。世界の国際映画祭で話題になった作品、製作国で大ヒットしている作品、注目監督の新作等を取り上げ、8月末時点で日本の公開が未定である作品を多数紹介。当映画祭での上映をきっかけに国内公開が決まったケースも多い。今年も世界で話題になっている数々の新作を紹介した。

上映本数 21作品 動員数 8,006名

[共催・提携企画]

（６）第10回文化庁映画週間

- ①文化庁映画賞の授賞並びに記念上映会 10月17日（木）／10月20日（日）
優れた文化記録映画3作品に対する「文化庁映画賞」の授賞と、記念上映会を開催。併せて、永年にわたり日本映画を支え、顕著な業績を挙げた功労者9名を顕彰した
- ②シンポジウム—MOVIE CAMPUS— 10月22日（火）
日本文化の最新動向をアカデミックな視点で紹介。
第一部は“時代劇”をテーマに冒頭で活弁付き上映を実施、第二部は現在の映画視聴環境を支える企業からゲストを招き“映画の見方”について議論した。
- ③上映会『時代劇へようこそ～まず、粹にいきましょう』10月19日（土）／10月24日（木）
シンポジウムで取り上げたテーマでもある“時代劇”に関連した作品を4作品上映。

（７）みなと上映会

10月19日（土）／10月20日（日）

親子で楽しめるプログラムが毎年好評の上映会。「森に生きる少年～カラスの日～」やキンダー・フィルム・フェスティバルの協力により集められた海外でも評判の高い秀逸な作品を上映。セリフをその場で吹き替えるライブシネマ上映は、劇場のみならず政策研究大学院大学想海樓ホールでも行った。

（８）コリアン・シネマ・ウィーク 2013

10月18日（金）～10月22日（火）

最新の韓国映画6本の上映。上映作品のイ・チャンドン監督、キム・ドンホ監督のトークショー、チョ・ジンギョ監督のティーチインを通じて韓国映画の魅力を紹介。

(9) ショートショートフィルムフェスティバル& アジア「フォーカス オン アジア&ワークショップ」 10月24日(木)～10月27日(日)

カンヌ短編パルムドール受賞「セーフ」等アジアの注目作品のほか、ベネディクト・カンバーバッチ主演「二人」を特別招待上映。ワークショップでは、「あまちゃん」プロデューサー訓覇圭が講師で登場。

(10) 2013 東京／沖縄・中国映画週間 10月17日(木)～10月23日(水)
中国の最新映画8本を東京と沖縄で上映。

(11) 第6回したまちコメディ映画祭 in 台東 9月13日(金)～9月16日(月・祝)
堺正章にコメディ栄誉賞を授与し、記念の特集上映や豪華アーティストによるリスペクトライブを開催。世界各国より、特別招待作品の上映やコンペティション、各種コラボ企画上映等を実施。

(12) 日米フィルムアカデミー 10月19日(土)
日米映画界をけん引する気鋭のクリス・ワイツ監督と清水崇監督が映画作りの裏側を徹底的に解剖するトークとワイツ監督の劇場未公開作「明日を継ぐために」上映の二部構成。公式 Twitter でイベントを実況中継。

(13) 第35回PFFぴあフィルムフェスティバル 9月14日(土)～9月20日(金)
自主製作映画のコンペティション「PFFアワード」では、平均年齢24.8歳の16名の才能を紹介した。招待作品部門では、「映画監督になる5つの方法」「素晴らしい特撮の世界」と題した特集を、上映と講座で展開した。

(14) Cine Grid @TIFF 2013 10月21日(月)
HDTVの各種技術や、クラウドを使った映像配信、ネットワークを介したリアルタイム協調映像製作など、最新のICT技術による映像制作・配信の将来像について、幅広い議論やデモンストレーションを実施。

(15) 映像シンポジウム 10月23日(水)
ハリウッドからスティーヴン・ポスター氏(国際撮影監督協会組合 Local600 ナショナルプレジデント)を招き、「撮影監督の芸術を実現するための最新技術」をテーマにシンポジウムを開催。劇場ではポスター氏撮影の4K映像などを上映。終了後には映像関係者約160名の懇親会を開き、好評を得た。

(16) 8Kスーパーハイビジョン スペシャルプレゼンテーション byTIFF×NHK 10月18日(金)～20日(日)
次世代映像システム・8Kスーパーハイビジョンがひらく映像の未来を展望。8Kで制作されたショートムービーやドラマなど4つのプログラムのほか、映画祭初日のグリーンカーペットを8K撮影した映像も特別上映。

(17) 東京国際映画祭 円谷創立 50 周年企画

10月17日(木)、18日(金)、20日(日)、24日(木)
ジャパンコンテンツの海外発信という観点から、円谷プロ創立50周年企画として、グリーンカーペット怪獣大行進、HD化「ウルトラマン」上映&トークショー、アリーナでの「ウルトラマンギンガショー」、ゲストを招いての「怪獣シンポジウム」を開催。好評を得た。

(18) MPAセミナー／映画配信の未来

10月21日(月)

映画に関する国内外のオンライン配信の未来、視聴体験の展開についてセミナーを開催。パネルディスカッションでは「映画配信の未来」について国内外の著名配信サイトの代表者に登壇いただき、活発な意見交換がなされた。

(19) 「デジタル時代の映画保存のあり方について」

10月22日(火)

映画のデジタル化が進む中、映画製作者は今後映画はどこでどのように保存されるのかという問題に直面しているため、デジタル時代の合理的な「映画」の保存の在り方についてのセミナーを実施。

(20) 日本映画監督協会新人賞、上映とシンポジウム

10月23日(水)

伝統ある日本映画監督協会新人賞の第53回受賞者である島田隆一監督と、アジアの未来部門「流れ犬バアト」のアミル・トゥーデルスタ監督が、同賞対象作品「ドコニモマケナイ」の上映後、活発な意見交換を行った。

(21) 映画の未来～バリアフリー上映に対応する新しい劇場設備と、バリアフリー上映によって広がる観客の可能性についてのシンポジウム

10月24日(木)

世界初の最新システムを使ったバリアフリー上映は大成功。朝原雄三監督と、聴覚障害者、視覚障害者によるシンポジウムで、観客はまさにバリアフリーによる「映画の未来」を体感した。

(22) その他の提携企画

①「映画館に行こう！」実行委員会×スカパー！第2回 新作映画イッキに見せます in 東京国際映画祭」

10月19日(土)

昨年の映画祭で好評を博した企画の2回目。配給会社20社による新作予告編58本のプレゼンが実施された。司会の中山秀征さん・久保純子さん他がイベントを盛り上げ、4時間の長丁場にも拘らず満席の会場から大好評を得ることとなった。

②「子どもたちの世界映画祭 21st キンダー・フィルム・フェスティバル」

8月7日(水)～8月11日(日)

21回目を迎え、映画を見る楽しみだけではなく「つくる楽しみ」を育む、未来の映画マンを世界へ発信していく日本最高峰の「ティーンズ・フィルム・コンペティション」を開設。国際映画祭として新たなスタートをきった。

- ③「第7回田辺・弁慶映画祭」 11月8日(金)～11月10日(日)
 コンペティション作品、招待作品、特別上映作品、応援上映作品計15本を上映。コンペティション作品は応募のあった128作品のうち、予備選考を通過した8作品を上映、審査を行って授賞作品を決定した。
- ④「第10回ラテンビート映画祭」 10月9日(水)～11月10日(土)
 今年で10周年を迎え、例年以上にスペインや南米の話題作や名作を主要4都市で上映。
- ⑤「ポーランド映画祭2013」 11月30日(土)～12月13日(金)
 昨年に引き続き、監修を務めたイエジー・スコリモフスキ氏、Polish Film Institute 代表のアグニエシュカ・オドロヴィッチ氏、ツィリル・コザチェフスキ駐日ポーランド大使出席のもと開会。アンジェイ・ワイダ傑作選やアニメなど多彩なラインナップで連日大盛況となった。
- ⑥「第3回日本学生映画祭」 10月25日(金)
 第25回東京学生映画祭、第7回 TOHO シネマズ学生映画祭、第15回京都国際学生映画祭のグランプリ作品を上映、犬童一心監督と上映作品の監督らを招き「映画をつくること」をテーマにシンポジウムも開催。

[顕彰・助成]

- ① 東京国際映画祭のコンペティション部門における東京サクラ グランプリ他、優秀作品、監督、俳優に対する顕彰。
- ② アジアの若手の優秀作品に対する顕彰（アジアの未来 作品賞）。
- ③ 日本映画の優秀作品に対する顕彰（日本映画スプラッシュ 作品賞）。

[運営]

- ① 自主企画の実施
 本年度は、新規部門、リニューアル部門も含めた以下の部門（「コンペティション」、「特別招待作品」、「アジアの未来」、「日本映画スプラッシュ」、「ワールド・フォーカス」）を実施した。
- ② 上映会場、各種会場
 六本木地区をメイン会場とした。
 - ・主要上映会場：
 - TOHOシネマズ六本木ヒルズ（9スクリーン）
 - シネマート六本木（2スクリーン）
 - ・その他の上映会場（提携企画を上映）：
 - お台場シネマメディアージュ、アカデミーヒルズ49タワーホール、

政策研究大学院大学想海樓ホール、シネクイント、東京都写真美術館ホール、
韓国文化院ハンマダンホール、調布市グリーンホール、浅草公会堂、
東京都美術館講堂、シアター・イメージフォーラム、新宿バルト9、
紀南文化会館

・また、上映会場以外の会場として以下を使用した。

「グランドハイアット東京」：オープニング・レセプションの会場として使用。

「森タワー」：15階（東京国際映画祭事務局）

49階（記者会見、各種取材、各種セミナー実施、感謝のタペ）

2階（インフォメーション・デスク）

「Roy's」（ロイズ東京）ウエストウオーク5F：OPレセプションで使用。

「ヒルズカフェ」：TIFF movie cafe（ティフムービーカフェ）として使用。

「毛利庭園」：シネマ・キャラバンを実施。

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」：グリーンカーペット・エリアとして使用。

「六本木ヒルズ アリーナ」：連日、各種イベントの実施に使用。

「小田急百貨店新宿本館12Fレストラン街」：本映画祭の出品作品
の紹介等の場として活用。

③ 入場料金

- オープニング／クロージング 一般：2,500円 学生前売・当日：2,000円
- コンペティション 一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- 授賞式＋サクラグランプリ受賞作品
一般：2,000円 学生前売：1,500円 学生当日：500円
- 特別招待作品
一般：2,000円 学生前売：1,500円 小学生以下：1,000円 学生当日：500円
- アジアの未来、日本映画スプラッシュ、ワールド・フォーカス、特別上映
一般：1,300円 学生前売：1,000円 学生当日：500円
- みなと上映会、監督協会、バリアフリー上映
一般：1,000円、学生前売：800円 学生当日：500円
- 円谷プロ イベント上映 一般・学生：3,000円

④ 会期中のイベント

（六本木ヒルズ アリーナイベント）

○ オープニング・イベント：10月17日（木）

グリーンカーペットからの流れで作品ゲストが特設ステージに登壇して挨拶をした。

○ デイリーでのイベント開催：会期中、以下のイベントを連日開催した。

- ・「清く柔く」スペシャルトークイベント：長澤まさみ、新城毅彦監督ほか
- ・「MTV81 presents J-Culture in the Frame at the 26th TIFF」：ベイビーレイズほか
- ・「WOWOW映画工房公開収録」：斉藤工、板谷由夏ほか
- ・「晴れのち晴れときどき晴れ」グリーンカーペットイベント：松本利夫ほか
- ・「映画ドキドキ！プリキュア〜」スペシャルイベント：生天目仁美ほか

- ・「ウルトラマンギンガ&ウルトラマンティガショー」：ウルトラマンギンガほか
- ・「バイロケーション」グリーンカーペットイベント：水川あさみ、千賀健永、高田翔ほか
- ・「マラヴィータ」ジャパンプレミア：ロバート・デ・ニーロほか
- ・「武士の献立」ジャパンプレミア：上戸彩、高良健吾ほか
- ・「地域から映画を発信@TIFF ARENA」：ジャパフィルムコミッション関連
- ・「音楽大学」コンサートイベント：東京音楽大学

(TIFF movie cafe ティフムービーカフェ)

会期中、六本木ヒルズの注目スポットであるヒルズカフェを TIFF movie cafe として、下記の企画を行った。

- ・「東京シネマナイト 2013 presented by TIFF×TBFF」
- ・「Cine Grid @TIFF2013 パーティー」
- ・「CoPro Connection 交流会@Hills Café」
- ・「TIFF Night supported by JAMSON」

(グリーンカーペット・エリア)

「六本木ヒルズ 大屋根プラザ」をグリーンカーペット・エリアと称して、グリーンカーペットを設置、オフィシャルパートナー各社の取り組みを紹介した。また、映画祭ゲストによるサイン会やポラーベアによる撮影会を実施するなど、誰もが集い、楽しめる場となった。

(シネマ・キャラバン)

毛利庭園に来場客やゲスト、プレスを招き、くつろげる場を常設。フード、ドリンクの提供、サイレント映画の上映や音楽演奏など、雰囲気のある場作りができて、参加者からは好評を得た。

⑤ インフォメーションブースの設置

六本木ヒルズアカデミーヒルズエントランス内にて実施した。

一般の六本木ヒルズ来場者に広く東京国際映画祭の案内を行うとともに、映画祭に訪れたマスコミ・映画業界関係者に対する案内業務を行った。

⑥ ボランティア、インターン・スタッフの採用

TIFFのWEBサイト上で募集したボランティア・スタッフの方々に、上映会場で案内や事務局業務のサポートなど様々なところで活躍してもらった。また、大学や専門学校の協力のもとに学生をインターンで映画祭に参加してもらう試みも実施した。

⑦ オリジナル・グッズの販売

TIFFオフィシャルグッズとして、Spick and Span Noble とのコラボによるエコバッグを作成、販売した。

[広報活動]

- ① 新聞広告・・・「読売新聞」紙上
- ② 劇場予告・・・首都圏の主要劇場 9月21日より
- ③ プレスPASS・・・取材者向けのID登録。

取材エリア、プレスセンターへの入場及びP&I上映で利用

- ④ 記者会見
- 第1回記者会見 2013年 7月30日 六本木ヒルズ・タワーホール
 - 第2回記者会見 2013年 9月19日 六本木ヒルズ・タワーホール
 - 会期中の記者会見 TOHOシネマズ六本木ヒルズ・劇場内
 - 受賞者記者会見 2013年10月25日TOHOシネマズ六本木ヒルズSC4
- ⑤ 宣伝素材・・・ティザーチラシ、本チラシ(全上映スケジュール入り)、開催概要公式プログラム、公式記録、ポスター
- ⑥ パブリシティ・・・テレビ番組での特集放送、新聞での映画祭総括記事、映画専門誌への特集掲載、WEBポータルサイトへの特集掲載など
- | | |
|------------------------|-----------|
| 一般紙、スポーツ紙：新聞合計 | 367 媒体 |
| 映画専門誌、情報誌：紙媒体合計 | 207 媒体 |
| NHK、民放局、BS・CS局他：電波媒体合計 | 242 媒体 |
| インターネット：ネット媒体合計 | 5031 媒体 |
| 海外広報：海外媒体合計 | 5281 媒体 |
| パブリシティ合計 | 11,128 媒体 |
- 会期中は、上映会場においてマスコミ対応、また来日ゲストの個別取材等に対応した。
- ⑦ 公式サイト・・・公式サイトをYahoo!/GyaO!内に置きより認知拡大を図った。結果286万PV(第25回実績)から760万PVへとアクセス数が倍増した。
- ⑧ Cyber TIFF・・・東京国際映画祭の動画配信プロジェクト。
公式WEB及びモバイルサイトでの動画配信を通して、TIFFの最新情報を発信するとともに、オープニング、クロージングの様子はインターネットへの配信を実施した。また、撮影した素材は各マスコミに提供して東京国際映画祭の情報発信に寄与した。
- ⑨ イメージネット・・・TIFFの出品作品の素材を提供しているサービス。
登録者であれば誰でもアクセス出来て、写真や予告編映像等を取り込むことが出来る。また、情報発信のツールとしても活用。

[東京国際映画祭地区委員会の活動]

- 「みなと委員会」・・・港区、麻布警察署、麻布消防署、六本木ヒルズ自治会、港区内の各町会、商店街連合会で結成された東京国際映画祭を支援する委員会である。
- 第26回の開催においても、会期前から会期中を通じて会場周辺や港区内の各所で東京国際映画祭を盛り上げる様々な活動を展開した。
- みなと上映会 区民などの家族を対象にした上映会の開催
2013年10月19日(土)／10月20日(日)
TOHOシネマズ六本木ヒルズ、
政策研究大学院大学 想海樓ホール
 - 観客賞 観客の投票によって選ぶコンペ作品への賞(賞金1万米ドル)

○ 街頭フラッグの掲出

けやき坂、麻布十番商店街、六本木商店街、芋洗坂商店街、
六本木材木町商店街にて合計305枚

2013年10月4日(金)～10月25日(金)

○ みなとクリーンナップ・プロジェクト

荒天のため中止

2013年10月5日(土) 午前10時開始

○ オリジナル広告

港区のKissポート誌10月号に1ページ広告を掲載して、
港区内の全戸に新聞折込配布した他、主要駅、公共施設で
合計15万枚を配布した。

(森ビル・六本木ヒルズ内の広報活動)

- 地下鉄通路 地下鉄コルトン、特設ポスターボード
- メトロハット 内周バナー、外周ガラス面シート、メトロハット・ビジョン
- 66プラザ 水景、ポスターボード
- 大屋根プラザ 吊り下げバナー
- けやき坂 歩道照明バナー
- ヒルズカフェ／スペース
店舗装飾

(六本木地区内の広報活動)

○ 都営地下鉄・バス

駅構内ポスター掲出、中吊り掲出、チラシ設置

[エコロジーの取り組み]

■ グリーンカーペットの実施

今年も「エコロジー」の象徴としてのグリーンカーペットを敷設。このカーペットは、日本コカ・コーラ株式会社、帝人株式会社の協力により、環境負荷の低減を目指し回収されたペットボトルを再生してつくられている。

■ グリーン募金の実施

昨年に引き続き、映画祭期間中に募金活動を実施。チャリティオークションも実施し、売上金は「木下の森」「緑の東京募金」、そして被災地での上映活動を行っている「シネマエール東北」の各所へ寄付した。(募金総額 546,000 円)

■ グリーンカーペット・エリア

本年度も、スポンサー各社の協力のもと、「グリーンカーペット・エリア」を大屋根プラザに展開。グリーンカーペットの敷設や環境に関する各社の取り組みを展示した。

■ 電子チケットの導入

東京お国際映画祭は、昨年より電子チケット (ticket board) を導入。申し込みから支払い、チケット引取り (ダウンロード)、入場まで1台の携帯電話・スマートフォンなどで決済可能となった。

2. 国際振興支援事業

【 TIFFCOM 2013 の開催概要 】

「Japan Content Showcase/TIFFCOM」の制作運営（経済産業省の委託事業）

平成 25 年度で 10 年目を迎えた TIFFCOM2013 は、昨年に引き続き、音楽の国際マーケットである TIMM（第 10 回国際ミュージックマーケット）、アニメ企業の出展による TIAF（東京国際アニメ祭 2013 秋）、と同会場で実施し、「Japan Content Showcase」（JCS）のバナーの下、多様なコンテンツが一堂に会する合同マーケットとして開催された。

JCS/TIFFCOM として過去最高となる 316 の出展団体が参加し、バイヤー登録は、昨年対比 9%増の 1074 人、商談件数も 4844 件と昨年対比 20%増となり、それに伴って成約金額も昨年対比 25%増となった。

■ JCS/TIFFCOM 2013 結果報告

- ① 主催：経済産業省／公益財団法人ユニジャパン
- ② 共催：第 26 回東京国際映画祭
- ③ 同時開催：第 10 回東京国ミュージックマーケット（TIMM）
東京国際アニメ祭 2013 秋（TIAF 2013 Autumn）
- ④ 日程：平成 25 年 10 月 22 日（火）～10 月 24 日（木）
- ⑤ 会場：ホテルグランパシフィック LE DAIBA、シネマメディアージュ

出展者データ

2013 年度 出展団体数【 海外：160／国内：156 合計：316 】



2013年度 国別出展団体数

国名	数	国名	数	国名	数
日本	156	カナダ	6	インド	1
韓国	34	香港	5	シンガポール	1
台湾	23	インドネシア	5	イラン	1
イギリス	16	スペイン	4	オランダ	1
カンボジア	13	中国	3	スイス	1
マレーシア	11	アラブ首長国連邦	2	ドイツ	1
タイ	10	トルコ	2	ポーランド	1
フランス	9	フィリピン	2	デンマーク	1
アメリカ	6	ブラジル	1	合計	316

バイヤーデータ

◆2013年度 : 1074人 ※ 2012年度より9%増加

国名	人数	国名	人数	国名	人数
日本	525	フィリピン	11	ルクセンブルク	2
韓国	115	イギリス	11	ルーマニア	2
香港	84	オーストラリア	6	ミャンマー	1
台湾	79	ブラジル	6	キューバ	1
アメリカ	51	インド	3	イスラエル	1
中国	43	ロシア	3	チュニジア	1
タイ	42	ドイツ	3	クロアチア	1
フランス	24	インドネシア	2	イタリア	1
シンガポール	20	アラブ首長国連邦	2	スイス	1
ベトナム	16	カナダ	2	合計 : 1074人	
マレーシア	13	スペイン	2		

商談結果推移・内容

契約金額および商談件数推移

◆2013年度 : 総契約金額 : \$64,947,580 (約 66 億 711 万円)



【 TIFFCOM 事業の多角的展開 】

(1) 日本映画・映像コンテンツの輸出支援事業 (文化庁の委託事業、他)

■ 主要映画見本市への「ジャパングース」出展

海外の主要映画祭に日本映画の海外広報・セールス拠点「ジャパングース」を出展、日本映画情報センターとして活用する他、ブーススペースを日本映画の海外販売を行う事業者提供、日本映画の輸出や共同製作等の海外展開を支援している。

- ① カンヌ国際映画祭マーケット (平成 25 年 5 月 15 日～24 日)
* JETRO との共同出展
- ② アヌシー国際アニメーション映画祭マーケット (平成 25 年 6 月 12 日～14 日)
・ 練馬アニメーション協議会との共同ブース出展。
・ 6 月 13 日 (木) 「Japan Party」を開催。
- ③ トロント国際映画祭マーケット (平成 25 年 9 月 5 日～14 日)
・ 9 月 9 日 (月) 国際交流基金トロント事務所にて「ジャパン・フィルム・ナイト」を開催。
- ④ ベルリン国際映画祭マーケット (平成 26 年 2 月 6 日～14 日)

⑤ 香港国際映画祭マーケット（平成 26 年 3 月 24 日～3 月 27 日）

* JETRO との共同出展

（２）国際共同製作支援事業（経済産業省の委託事業）

■ TIFFCOM 2013 共同製作マーケット（CoPro Connection）

TIFFCOM 2013 共同製作マーケットは、文化庁の国際共同製作支援事業と連携し、国内外の映画製作者向けに一連のセミナー、ビジネスマッチング、ピッチングを行った。今年度は、欧州のプロデューサー団体 Ateliers du cinéma européen (ACE)、韓国映画振興委員会（KOFIC）のコーディネート企画を含めて、全 20 企画が参加した。

① 実施内容

主催：経済産業省、公益財団法人ユニジャパン

日程：平成 25 年 10 月 21 日～25 日

会場：ホテルグランパシフィック LE DAIBA、他

② 参加企画及びプロデューサー

日本企画

	企画	監督	プロデューサー	会社	国
1	喧嘩の凡て（仮）	真利子 哲也	石塚 慶生	松竹株式会社	日本
2	天の茶助	SABU	李 鳳龍	株式会社オー・エル・エム	
3	ヴィンテージ	未定	村上 公一	株式会社ロボット	
4	Where Wolves Fear to Prey	ジェイソン・グレイ	グレイ水野 詠子	有限会社ローデッド・フィルムズ	
5	孔雀	川口 浩史	木村 美砂	有限会社ヒバナ・エンタテインメント	

ヨーロッパ企画

	企画	監督	プロデューサー	会社	国
6	36 Views, Mount Fuji Revisited	Pieter-Rim KROON	Annemiek VAN DER HELL	Windmill Film BV	オランダ
7	The Avenging Silence	Nicolas WINDING REFN	Lene BØRGLUM	Space Rocket Nation	デンマーク
8	A Borrowed Life	Kit HUI	Isabelle GLACHANT	Yisha Production	フランス
9	ハイジ	Alain GSPONER	Reto SCHAERLI and Uli PUTZ	Claussen+Wobke+Putz	スイス、ドイツ
10	MAGNITUDE 9	Agnieszka VOSLOO	Anna ROZALSKA	Alvernia Studios	ポーランド
11	The Secret of Hiroshi Amano	Jeanne LABRUNE	Catherine DUSSART	GDP	フランス

韓国企画

	企画	監督	プロデューサー	会社	国
12	アムール	チョン・ジェウン	イ・ウンギョン	ZOA Films	韓国
13	ファンタジア	チャン・ゴンジェ	チャン・ゴンジェ	Mocushura	
14	フィンランドパパ	未定	ユン・チャンオブ	MoonWatcher	
15	オクス 駅オバケ 3D	英 勉	キム・テヒョン	AVA Entertainment	
16	勝負	オ・ギファン	イ・ギョンヒ	NNBB Company	

その他の海外企画

	企画	監督	プロデューサー	会社	国
17	ハナレイ・ベイ	石田 基紀	Jason LAU	TalkStory Productions	米国
18	I Wanna Go With the Wind	Fang SONG	Fang SONG	N/A	中国
19	宇宙怪獣ラモックス 〈アニメーション〉	未定	Vince GERARDIS	Startling Media	米国
20	The White Girl	Jenny SUEN & Christopher DOYLE	Jenny SUEN	Lee Ming Films	香港

■文化庁国際共同製作支援のための認定

① 実施概要

- ・応募件数： 9 件
- ・認定件数： 6 件
- ・文化庁支援採択件数： 4 件

区分	作品名	団体名
アニメーション映画	アップルシードα	ルーセント・ピクチャーズ株式会社
劇映画	真夜中の五分前	東映株式会社
劇映画	人類資金	KIHO
劇映画	ガルム・ウォーズ	プロダクション I. G

② 国際共同製作認定のための検討委員会の開催

- ・日程：平成 25 年 7 月 10 日(水)
- ・会場：ユニジャパン会議室
- ・検討委員：

石川知春 NPO 法人映像産業振興機構(VIPO) 事務局長
 井関 惺 株式会社タラ・コンテンツ プロデューサー
 華頂尚隆 一般社団法人日本映画製作者連盟 事務局長
 富山省吾(委員長) 日本アカデミー賞協会 事務局長
 堀越謙三 有限会社ユーロスペース 代表取締役
 東京藝術大学大学院映像研究科教授
 南 雅彦 一般社団法人日本動画協会 常務理事
 株式会社ボンズ 代表取締役社長

(3) 海外の国際映画祭・映画賞への出品支援事業（文化庁の委託事業）

海外映画祭・映画賞に参加する日本映画の出品経費、映画製作者の渡航経費等を支援する。長編映画から短編映画、著名監督作品から新人監督・学生作品まで、アニメーション、ドキュメンタリー映画を含めて、海外の映画祭から招待されたあらゆる日本映画を支援対象としている。

■平成 25 年度支援実績

- ① 総採択数 76 件（平成 24 年度実績 79 件）
- ② 総申請件数 165 件（同 180 件）
- ③ 支援総額 27,038,375 円（同 25,512,384 円）

■主な支援作品

- ・カンヌ国際映画祭
『藁の楯』（三池崇史監督）
『そして父になる』（是枝裕和監督）
* 審査員賞受賞
- ・モスクワ国際映画祭
『さよなら溪谷』（大森立嗣監督）
* 審査員特別賞受賞
- ・ヴェネチア国際映画祭
『風立ちぬ』（宮崎駿監督）
- ・ロカルノ国際映画祭
『リアル～完全なる首長竜の日』（黒沢清監督）
『共喰い』（青山真治監督）
* Youth Jury Award 最優秀作品賞受賞
* ホッカリノ賞最優秀監督賞受賞
- ・モントリオール世界映画祭
『利休にたずねよ』（田中光敏監督）
* 最優秀芸術貢献賞受賞
- ・ベルリン国際映画祭
『小さいうち』（山田洋次監督）
* 最優秀女優賞（銀熊賞）受賞

■ニュースレターの制作発信

上記に関連し、世界各地の映画祭エントリー情報や日本映画の出品・受賞情報を掲載したメールマガジン「Unijapan Newsletter」を隔週で発行している（日本語版、英語版）。
エントリー情報／日本映画の出品・受賞情報／海外映画祭及び映像見本市の掲載数は以下の通り。

開催地域	掲載映画祭数
ヨーロッパ	85 件 (85 件)
南北アメリカ	40 件 (43 件)
中近東アフリカ	6 件 (2 件)
アジア太平洋	26 件 (21 件)
合計	157 件 (151 件)

(4) 国際事業を担う人材育成事業

(4) - 1. 国際コンテンツビジネスプロデューサー育成事業（経済産業省の委託事業）

経済産業省からの受託事業「若手人材発掘育成・国際ネットワーク構築事業」として実施。世界最高水準のプロデューサー教育カリキュラムを有する海外フィルムスクール（大学院）への留学生に対する学費等の支援、説明会の実施、国内における研修の実施、人材育成に関連する調査等を行った。

■長期留学支援事業

① 対象となるフィルムスクール（大学院）

- ・ American Film Institute (AFI Conservatory)
- ・ Columbia University in the City of New York, School of the Arts
- ・ New York University, Tisch School of the Arts
- ・ University of California, Los Angeles, School of Theater, Film and Television
- ・ University of Southern California, School of Cinematic Arts
- ・ University of Texas at Austin, Department of Radio-Television-Film
- ・ Loyola Marymount University, School of Film and Television
- ・ The National Film and Television School
- ・ London Film School

② 対象となるコース

- ・ プロデュースコース、プロダクションコース、脚本コース

③ 平成 25 年度支援対象者

- ・ 内田 堯 (USC School of Cinematic Arts, Film and Television Production)
- ・ 深田 祐輔 (USC School of Cinematic Arts, Film and Television Production)

④ 留学支援説明会

- ・ 長期留学支援制度の周知とフィルムスクールへの留学希望者の発掘及びサポートを目的とした説明会を実施
- ・ 日程：平成 25 年 9 月 14 日（土）
- ・ 参加者：46 人

(4) - 2. 「ぴあフィルムフェスティバル」の共催（映画演劇文化協会の補助事業）

① 日程：平成 25 年 9 月 14 日（土）～9 月 20 日（金）

② 会場：渋谷シネクイント

③ 審査員：安藤親広（映画プロデューサー）、橋本 一（映画監督）、中井美穂（アナウンサー）、中村義洋（映画監督）、森山未来（俳優）

④ 受賞結果：

- ・ グランプリ：『夜とケイゴカー』（市川悠輔・27 歳）

- ・準グランプリ：『きみの信じる神様なんて本当にいるの？』（猪狩裕子・28歳）
- ・審査員特別賞：『女島』（泉谷智規・30歳）、『山守クリップ工場の辺り』（池田 暁・37歳）、
『夜の法則』（山下洋介・22歳）
- ・エンタテインメント賞（ホリプロ賞）：『愛のはずみ』（佐藤悠玄・22歳）
- ・ジェムストーン賞（日活賞）：『女島』（泉谷智規・30歳）
- ・映画ファン賞（ぴあ映画生活省）：『震動』（平井朝美・28歳）
- ・日本映画ペンクラブ賞：『夜の法則』（山下洋介・22歳）

⑤ 映画祭展開：

- ・『夜とケイゴカー』（市川悠輔）
 - * 東京国際映画祭「日本映画スプラッシュ」部門招待
- ・『山守クリップ工場の辺り』（池田 暁）
 - * バンクーバー国際映画祭グランプリ（Dragons & Tigers Award）受賞
 - * ロッテルダム国際映画祭グランプリ（Tiger Award）受賞
- ・『重力とインポテンツ』（佐々木 想・平成24年度制作）
 - * カンヌ国際映画祭短編コンペティション部門招待
 - * PFF アワード受賞者を対象とした短編映像制作事業（平成24年度経済産業省・若手人材
海外研修・国際ネットワーク構築事業）支援作品

（5）情報発信・調査研究事業

（5）- 1. 海外向け日本映画データベース・JFDBの制作（国際交流基金との共同事業）

■ 現在までの掲載作品数

公開年	掲載作品数
2002年	40
2003年	118
2004年	138
2005年	117
2006年	223
2007年	289
2008年	372
2009年	376
2010年	398
2011年	366
2012年	371
2013年	353
合計	3,161

(5) - 2. 海外向け日本映画・アニメ年鑑「Japanese Film」の発行と配布

(文化庁の委託事業)

平成 25 年に劇場公開された代表的な日本映画・アニメの紹介と、日本映画産業統計、日本映画概況を掲載、主要映画祭・映像見本市にて配布した。

■ Japanese Film 2014 の概要

- ① 配布数：2500 部
- ② 配布先：カンヌ、アヌシー、トロント、プサン、TIFFCOM（東京）、アメリカン・フィルム・マーケット（ロサンゼルス）、ベルリン、香港の各映画祭、見本市での配布の他、日本政府在外公館、国際交流基金海外事務所、駐日外国公館に送付
- ③ 掲載作品：選考委員会により代表的な 80 作品を選んで日本語・英語併記で紹介
- ④ 日本映画産業統計：一般社団法人日本映画製作者連盟、一般社団法人外国映画輸入協会からの協力を得て、各種統計情報を掲載

(5) - 3. 平成 25 年度 文化庁映画週間の実施（文化庁の委託事業）

■文化庁映画賞 贈呈式

- ・日程：平成 25 年 10 月 17 日（木） 18 時 00 分～
- ・会場：六本木ヒルズ「グランドハイアット東京」

■文化庁映画賞 受賞記念上映会

- ・日程：平成 25 年 10 月 20 日（日） 11 時 00 分～
- ・会場：シネマート六本木「スクリーン 1」

■平成 25 年度 文化庁映画賞 文化記録映画部門 受賞作

- ① 文化記録映画大賞
『先祖になる』（監督：池谷 薫 製作：有限会社蓮ユニバース）
- ② 文化記録映画優秀賞
『異国に生きる 日本の中のビルマ人』（監督・製作：土井敏邦）
『福島 生きものの記録シリーズ 1～被曝～』（監督：岩崎雅典 製作：株式会社群像舎）

■平成 25 年度 文化庁映画賞 映画功労部門 受賞者

粟木原 毅（映画照明）
池端松夫（映画美術・塗装）
今村治子（スクリプト）
鶴飼邦彦（映画編集）
澤登 翠（活動写真弁士）
斯波重治（音響監督）
杉野昭夫（キャラクターデザイン・作画監督）

須佐見 成（タイミング）

本田 孜（映画録音）

■全国映画会議 シンポジウム—MOVIE CAMPUS—

・日程：平成25年10月22日（火）13時30分～

・会場：六本木アカデミーヒルズ49「タワーホール」

第一部『時代劇へようこそ～先ず、^{いま}粋にいきましょう』

【ゲスト】

小泉堯史（映画監督）

黒澤和子（衣裳デザイナー）

澤登 翠（活動写真弁士）

高橋 剣（プロデューサー）

能村庸一（プロデューサー）

【モデレーター】

佐伯知紀（文化庁文化部芸術文化課 主任芸術文化調査官）

第二部『わが家を名画座に～いい映画のを見つけ方教えます』

【ゲスト】

河井真也（日本映画衛星放送株式会社／映画プロデューサー）

岡本圭三（株式会社KADOKAWA 映像営業局 映像管理部 部長）

榎谷大地（株式会社紀伊國屋書店 映像課 係長）

勝江正隆（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社

TSUTAYA 発掘良品ディレクター）

渡邊 健（カルチュア・コンビニエンス・クラブ株式会社 執行役員

兼 株式会社T-MEDIA ホールディングス TSUTAYA.com 事業本部 映像営業 Unit Unit Leader）

雅子（モデル）

【モデレーター】

田中文人（東京国際映画祭 作品チーム）

■全国映画会議 時代劇上映会『時代劇へようこそ～先ず、^{いま}粋にいきましょう』

・日程：平成25年10月19日（土）／10月24日（木）

・会場：シネマート六本木「スクリーン4」

・協力：日活株式会社／東宝株式会社／松竹株式会社／株式会社KADOKAWA

・プリント提供：独立行政法人国際交流基金／川喜多記念映画文化財団

【上映作品】

『決闘高田の馬場』（マキノ正博／稲垣 浩）

『赤ひげ』（黒澤 明）

『螢火』（五所平之助）

『座頭市血笑旅』（三隅研次）

* 全作品 35mm プリント、英語字幕付きで上映

（５）－４．インドプロジェクトの制作運営（経済産業省の委託事業）

今後著しく経済成長・市場拡大が見込まれるインドにおいて、我が国コンテンツ産業の現地進出の促進を目的として実施された。

① 実施内容

インド政府情報放送省管轄で運営されている「インド国際映画祭 International Film Festival of India(2013年11月20日～30日)」においてアニメーションを含む日本映画12本の特集上映。

「ボリウッド」の本拠であり、インド映画産業の年間を通じた活動の中心地であるムンバイにて日本映画製作者、アニメーション製作者とインド映画産業界とのビジネスマッチングとネットワーキングのイベントを開催。

日程：平成25年11月19日～30日

会場：インド国際映画祭（ゴア）、Novotel Mumbai Juhu Beach（ムンバイ）

② 参加者

【映画監督】

黒沢 清 「リアル 完全なる首長竜の日」

原 恵一 「はじまりのみち」

李 相日 「許されざる者」

【プロデューサー】

岡田 渉 株式会社 KADOKAWA

厨子健介 株式会社セディックインターナショナル

杉原晃史 日活株式会社

秋田 穰 株式会社ポリゴン・ピクチュアズ

石塚 慶生 松竹株式会社

③ 上映作品

- ・『リアル 完全なる首長竜の日』（監督：黒沢清） 株式会社TBSテレビ
- ・『許されざる者』（監督：李相日） ワーナーエンターテインメントジャパン株式会社
- ・『はじまりのみち』（監督：原恵一） 松竹株式会社
- ・『八日目の蟬』（監督：成島出） 松竹株式会社
- ・『凶悪』（監督：白石和彌） 日活株式会社
- ・『映画けいおん！』（監督：山田尚子） 株式会社TBSテレビ
- ・『おおかみこどもの雨と雪』（監督：細田守） 日本テレビ放送網株式会社
- ・『GANTZ』（監督：佐藤信介） 日本テレビ放送網株式会社

- ・『言の葉の庭』（監督：新海誠） 株式会社コミックス・ウェーブ・フィルム
- ・『おしん』（監督：富樫森） 株式会社セディックインターナショナル
- ・『体脂肪計タニタの社員食堂』（監督：李闘士男） 株式会社 KADOKAWA
- ・『図書館戦争 革命のつばさ』（監督：浜名孝行） 株式会社 KADOKAWA

（５）－５．CREATIVE MARKET TOKYO (CMT) 事業（関東経済産業局の補助事業）

クリエイティブ関連企業による会員制のネットワークである CMT を構築するとともに、そのネットワークを活性化すること、会員企業の活動をサポートすることを目的として事業を実施。また、国内外の展示会において CMT ブースの出展を行った。

■ CMT ネットワークの構築

- ① 会員企業数：208 社（平成 26 年 3 月末現在）
- ② イベント実施回数：7 回（ほか関連イベント 3 回）
- ③ 延べ参加者数：730 人
- ④ 主な実施内容
 - ・ 2013 年度キックオフカンファレンス
 - ・ TOKYO CROWD FUNDING FORUM 2013
 - ・ TOKYO OPEN CREATIVE CONFERENCE
 - ・ 法務・契約相談会
 - ・ CMT CONNECTION -マッチング交流会-
 - ・ コンテンツ事業者勉強会
 - ・ CMT ビジネスプロジェクトレビュー

■ CMT ブースの出展

- ① 東京インターナショナル・ギフト・ショーへの出展
 - 日程： 平成 25 年 9 月 4 日（水）～6 日（金）
 - 会場： 東京ビックサイト（東京都江東区有明 3-11-1）
 - 主催： 株式会社ビジネスガイド社
 - 規模： 来場者数約 19 万人
- ② Japan Content Showcase 2013 への出展
 - 日程： 平成 25 年 10 月 22 日（火）～24 日（木）
 - 会場： ホテル グランパシフィック LE DAIBA（東京都港区台場 2-6-1）
 - 主催： 経済産業省 / 公益財団法人ユニジャパン / 一般財団法人音楽産業・文化振興財団 / 一般社団法人日本動画協会
 - 規模： 来場者数 22,738 人（うち登録バイヤー1,074 人）
- ③ 香港国際ライセンシングショー2014 への出展
 - 日程： 平成 26 年 1 月 6 日（月）～8 日（水）
 - 会場： ホテル グランパシフィック LE DAIBA（東京都港区台場 2-6-1）
 - 主催： 香港貿易発展局
 - 規模： 来場者数 18,082 人

II. [処務の概要]

1. 役員(理事・監事)、評議員に関する事項

役職名	氏名	任期	常勤/ 非常勤	報酬 等	本法人以外の現職
代表理事 理事長	迫本 淳一	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	松竹株式会社 代表取締役社長
理事	井上 弘	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本民間放送連盟 会長
理事	岡田 剛	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東映株式会社 代表取締役社長
理事	小野 直路	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	前 日本放送協会 副会長
理事	崔 洋一	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合日本映画監督協会 理事長
理事	佐藤 直樹	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	日活株式会社 代表取締役社長
理事	椎名 保	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社 KADOKAWA 取締役相談役
理事	島谷 能成	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東宝株式会社 代表取締役社長
理事	布川 郁司	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本動画協会 理事長
理事	森 浩生	平成25年 6月21日～ 平成27年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	森ビル株式会社 取締役 副社長執行役員
理事	松岡 宏泰	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	東宝東和株式会社 代表取締役社長
理事	高田 佳夫	平成25年 6月21日～ 平成27年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社電通 取締役 常務執行役員
理事	依田 巽	平成24年 6月20日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本経済団体連合会 エンターテインメント・コンテンツ産業部会長
監事	大藏 満彦	平成22年 7月 1日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	全国興行生活衛生同業組合連合会 会長
監事	唐澤 洋	平成26年 3月17日～ 平成29年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	公認会計士
評議員 長	大谷 信義	平成22年 7月 1日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人日本映画製作者連盟 会長
評議員	岡田 正代	平成22年 7月 1日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	公益財団法人川喜多記念映画文化財団 理事長
評議員	大森 壽郎	平成24年 6月20日～ 平成28年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社博報堂 DYメディアパートナーズ 代表取締役社長
評議員	柏原 寛司	平成22年 9月 2日～ 平成26年3月31日事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	前 一般社団法人日本シナリオ作家協会 会長

評議員	角川 歴彦	平成22年 7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日 期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社 KADOKAWA 取締役会長
評議員	兼松 熙太郎	平成22年 7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日 期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合 日本映画撮影監督協会 理事長
評議員	古森 重隆	平成22年 7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日 期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	富士フイルム株式会社 代表取締役会長・CEO
評議員	佐野 哲章	平成22年 9月 2日～ 平成 26 年 3 月 31 日 期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	株式会社ソニー・ピクチャーズ エンタテインメント 業務執行役員
評議員	新藤 次郎	平成22年 7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日 期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合 日本映画製作者協会 代表理事
評議員	杉田 成道	平成22年 7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日 期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	協同組合 日本映画テレビプロデューサー協会 会長
評議員	塚田 芳夫	平成22年 9月 2日～ 平成 26 年 3 月 31 日 期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	公益社団法人映像文化製作者連盟 会長
評議員	松岡 功	平成22年 7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日 期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	一般社団法人映画産業団体連合会 会長
評議員	矢内 廣	平成22年 7月 1日～ 平成 26 年 3 月 31 日 期事業年度に 関する定時評議員会の終結時	非常勤	無	ぴあ株式会社 代表取締役社長

以上、平成26年3月31日 現在

2. 役員会等に関する事項

理事会

開会年月日	議 事 事 項	議 果
平成25年6月7日	第1号議案 平成24年度事業報告及び同収支決算承認の件 第2号議案 平成25年度収支予算一部変更案承認の件	可決 〃
平成25年6月21日	第1号議案 財団役員・法人間の取引承認の件 第2号議案 第26回東京国際映画祭実行委員会委員(2名)辞任及び同委員(2名)選任案承認の件 第3号議案 「就業規則」一部改訂案承認の件 第4号議案 評議員会招集日設定案承認の件	可決 〃 〃 〃
平成26年3月17日	第1号議案 平成26年度事業計画及び同収支予算承認の件 第2号議案 第26回東京国際映画祭実行委員会の解散及び第27回東京国際映画祭実行委員会の設置並びに同委員選任案承認の件 第3号議案 評議員会招集日設定案承認の件	可決 〃 〃

評議員会

開会年月日	議 事 事 項	議 果
平成25年6月21日	第1号議案 理事(3名)辞任及び理事(2名)選任案承認の件 第2号議案 平成24年度事業報告及び同収支決算承認の件 第3号議案 平成25年度収支予算の一部変更案承認の件	可決 〃 〃
平成26年3月17日	第1号議案 監事(1名)選任案承認の件	可決
平成26年3月17日	第1号議案 平成26年度事業計画及び同収支予算承認の件 第2号議案 第26回東京国際映画祭実行委員会の解散及び第27回東京国際映画祭実行委員会の設置並びに同委員選任案承認の件	可決 〃

3. 寄附金に関する事項

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(単位：円)

寄附の目的	寄附者	寄附金額	受領日	備考
国際映画祭 開催費用	松竹(株)	9,000,000	平成25年 6月28日	
	東宝(株)	9,000,000	平成25年 7月31日	
	東映(株)	9,000,000	平成25年 8月12日	
	(株)KADOKAWA (旧；(株)角川書店)	9,000,000	平成25年 7月31日	
	日活(株)	1,500,000	平成25年 9月 6日	
	富士フイルム(株)	1,000,000	平成25年 8月26日	
	(一社)映画演劇文化協会	1,000,000	平成25年 9月30日	
ぴあフィルムフェスティバル 制作・運営費用	(一社)映画演劇文化協会	20,000,000	平成25年 7月31日	
合 計		59,500,000		

4. 賛助会費に関する事項

(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(年会費 1口 50万円)

目的	会員氏名	口数	会員氏名	口数
	アスミック・エース(株)	2	(株)KADOKAWA (旧；(株)角川グループホールディングス)	2
	アテネ・フランセ文化事業(株)	1	カルチュア・コンビニエンス・クラブ(株)	1
	(株)アニプレックス	1	ギャガ(株)	3
	イオンエンターテイメント(株)	1	(株)久栄社	1
	(株)IMAGICA	1	(株)クオラス	1
	ウォルト・ディズニー・ジャパン(株)	4	(株)サウンドマン	1
	ウシオ電機(株)	1	佐々木興業(株)	1
	エイバックス・ピクチャーズ(株)	2	(株)サンライズ社	1
	(株)NHKエンタープライズ	2	三和興行(株)	1
	大蔵映画(株)	1	(株)集英社	2
	(株)KADOKAWA (旧；(株)角川書店)	6	ジュピターエンタテインメント(株)	3

(株)ショウゲート	2	TOHOシネマズ(株)	1
松竹(株)	6	東宝東和(株)	4
松竹ブロードキャスティング(株)	2	(株)東北新社	4
(株)松竹マルチプレックスシアターズ	1	トップツアー(株)	1
シンエイ動画(株)	1	20世紀フォックス映画	4
スカパーJSAT(株)	1	日活(株)	6
住友商事(株)	1	(株)ニッポン放送	1
(株)ユニ・ピクチャーズ エンタテインメント	4	(一社)日本映像ソフト協会	4
(株)チネチッタ	1	(株)日本シネアーツ社	1
(株)TBSテレビ	4	日本テレビ放送網(株)	4
(株)ティーワイリミテッド	1	(株)博報堂DYメディアパートナーズ	4
(株)テレビ朝日	4	パラマウント・ジャパン合同会社	4
(株)テレビ東京	3	バンダイビジュアル(株)	1
(株)電通	4	ぴあ(株)	1
東映(株)	6	(株)ヒューマックスシネマ	1
東映アニメーション(株)	2	(株)フジテレビジョン	4
東映ラボ・テック(株)	1	富士フイルム(株)	1
(株)東急レクリエーション	1	ブロードメディア・スタジオ(株)	2
(株)東京現像所	1	(株)ポニーキャニオン	3
(株)東京タカラ商会	1	武蔵野興業(株)	1
(株)東京楽天地	1	ワーナーエンターテイメント ジャパン(株)	4
東宝(株)	6	(株)WOWOW	1
東宝アド(株)	1		
合計 67社 151口 金額 75,500,000円			